



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名: ナミゲンゴロウ

学名: *Cybister chinensis*

大型の水生甲虫で、ため池など植生の豊かな止水域に普通に見られました。明かりにもよく飛んできていました。しかし、1990年頃から急激に減少し、2000年代に入るとほぼ見られなくなりました。かつていた池でも、池の環境は変わっていないのにいなくなっています。そのため、環境省レッドリストでは、絶滅危惧II類 (VU)、「レッドデータブックひろしま2021」では絶滅危惧 I 類 (CR+EN) とされています。

減少した原因は、農薬、外来生物、水辺環境の悪化、街灯への誘因など、いろいろ考えられていますが、どれか一つではなく、複合的なものだろうと考えられます。2023年から「種の保存法」で譲渡が禁止されています。

雄は前肢の符節が広がって吸盤になっていて、上翅の表面が滑らかです。雌では符節が細く、上翅の表面に細かなしわがあります。オスの広がった符節は、交尾の時、メスを固定するために役立ちます。ゲンゴロウ類の体は流線形で、後肢は長く遊泳毛と呼ばれる毛が生えていて、泳ぐのに適した体になっています。よくガムシと間違われますが、ガムシでは腹面が平たく、背面だけが盛り上がり、ラグビーボールを縦に半分に切ったような形ですが、ゲンゴロウ類では腹面も膨らみます。泳ぎ方もゲンゴロウの方がずっと上手です。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

